京都府京丹後市

地域資源を生かした元気の出る取り組みを紹介

①京都府地域力再生プロジェクト支援事業補助金　事業費全体の2/3
②京丹後市市民力活性化プロジェクト事業補助金　事業費全体の約1/5

①京都府　②京丹後市　自己資金

京丹後市市民部峰山市民局
京都府京丹後市峰山町杉谷889番地
TEL0772（69）0711

整備前の月の輪田

お祓いの後、種まき

整備開始　輪郭を整えます

よく肥えた土が入りました

水が張られ田植えを待ちます

歴史教室の開催

月の輪田とは？

京都府京丹後市峰山町二箇区にある月の輪の型をした小さな水田です。広さは約7平方メートルあります。

そばに石碑が建っており、その碑文は次のように刻まれています。

「月の輪田はみかづき田とも云い、大昔豊受大神が苗代（なわしろ）の清水戸（せいすいど）に浸した籾をここに蒔き、とれた稲種を天照大神に奉ったという遺跡である。代々の領主は除地としてこれを保護し、二箇村の義右衛門は毎年身を清めて稲を作り、白米一斗三升を初穂として伊勢神宮に奉納し、藁は全部この田に入れて翌年の肥料に当てたという。

昭和四十二年農業構造改革事業にともない、耕地整理のため北接十米の二本松稲荷前に移し、柿の木地蔵も併せて合祀し、これを保存すると共に、農業発祥の地の由来を記し、後世に伝えようとするものである

昭和四十二年十月建立　二箇区寄贈」

また、この地方には天女伝説があり、「丹後風土記（たんごふどき）」によると、むかし、丹波郡比治里（たにわぐんひじのさと）の比治山（ひじやま）の真奈井（まない）の井戸で天女8人が水浴びをしていました。

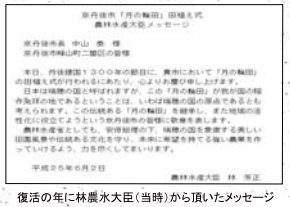
その時、老夫婦が、1人の天女の羽衣をかくしてしまい、天に帰れなくなった天女は、その老夫婦の子として家に住む事になりました。

天女は酒を造るのが上手く、その酒が高く売れ、老夫婦はお金持ちになりましたが、十数年後に突然「汝はわが子ではない」と言われ家を追い出されてしまいます。

天女は「天の原　ふりさけみれば霞立ち　家路まどいて行方しらずも」と歌を詠みながら泣き下ったそうです。その後、奈良の郷（京丹後市弥栄町）に安住の地を見つけ奈具神社に祀られたと言う事です。

この天女が食物や産業を司る神「豊受大神」とされています。このようなことから、豊受大神はもともとは天女であったと考えられています。

区民総出の田植え式　市長も毎年参加しています


復活の年に林農水大臣（当時）から頂いたメッセージ

一年間の活動の締めくくりは伊勢神宮（外宮）への奉納です

月の輪田の活動をまとめたホームページを開設「月の輪田」で検索か、こちらのQRコードでアクセスしてみてください

純米吟醸酒

丹後・みかづき田　新発売

平成26年12月21日（日）清酒　丹後・みかづき田（商標登録出願中）が発売になりました。二箇区内で今年度に収穫されたコシヒカリを用いています。

醸造は、新進気鋭の若手醸造家として注目される行待佳樹氏が社氏を務める竹野酒造に依頼をしています。

企画段階から空間デザイナーの高見慧氏を招いて商品開発を行い、ラベルデザインは市内在住のパッケージデザイナー田中康夫氏が作成しました。

商品名は「丹後・みかづき田」精米歩合60%の純米吟醸酒で、香り高くフルーティで飲みやすい仕上がりになっています。

生産本数は720ml入りで1,000本限定です。ただ今、市内の酒屋で好評販売中です。